

# ぴっと・いん



湯井一葉さん

★夜の北野で歌う――  
三月からシャンソンの湯  
井一葉さんが“北野クラブ”  
で歌うことになった。湯井  
さんは宝塚歌劇団の出身で  
シャンソンの勉強のために  
パリへ留学、その後、大阪  
ロイヤルホテルなどで活躍  
リサイタルも三回開いた。



「歌手にとって一度はス  
テージを持ちたい」という  
北野クラブの専属となつた  
湯井さんは、神戸っ子の仲  
間入りをした以上はここを  
ホームグラウンドとして神  
戸で歌つて行きたいと意欲  
満々。お客様の評判も上  
々で、この秋には北野クラ  
ブでリサイタルを……とも  
考へている。

ジルベール・ベコーに心  
杯をかたむけながら、マ  
マや店の女の子と会話を交

湯井一葉さん  
ラブ・生田区北野町一丁目六四  
番三三一―三五一  
★クラブ“飛鳥”が移転  
クラブ“飛鳥”の新店舗  
がこのほど完成し、四月五  
日、新装オープン・パーティ  
が開かれた。

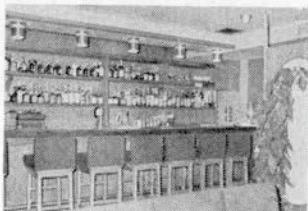
新装なつた店は、これま  
でとはガラリとイメージを  
変え、スマートな大理石造  
りで、二階へは優美な螺旋  
階段が続き、シャンデリア  
がまばゆく輝き、神戸らし  
いスマートな感じで、神戸  
の夜の老舗らしい気品が漂  
つてゐる。

スナック“山の手”

神戸市生田区中山手通り一丁目  
番三二一―三六七



ママを囲んで



雰囲気のある店内

わす。気のきいた言葉のや  
りとりが何よりの酒のさか  
なとなる。

●神戸うまいもん  
とドリンクイング

さつぱりとした気性のマ  
サチ

神戸市生田区中山手通り二丁目  
七五 伊藤ビル 2F  
番三三一―七二〇

★“山の手”が八周年

スナック“山の手”が三  
月十六日に開店八周年を迎  
えたが、四月五日夜、記念  
パーティが開かれた。

店の規模はそう大きく  
はないが、こじんまりと  
したなかに気取らない気  
さくな感じのママがいて、  
いつも気楽で和やかに飲

めるのが嬉しい。

店の場所も生田・神社西  
門前で、山と海とに囲ま  
れた神戸のほほ真ん中。

国際港都神戸にふさわ  
しいだけの優雅な雰囲気  
をもち、しかも、良心的  
なお値段で楽しめるクラ  
ブである。

PM 6 : AM 12  
日曜祭日休み

潜り戸を通って  
“花”のおふくろさんの味を



● 今月のおこんだて ●

花 そうめん 400円  
たかのり弁当 900円  
木の芽あえ 450円



和風季節料理

花

11:30A.M.~8:00P.M. 月曜日定休  
さんプラザ地階 ☎ 331-0087

よこいのお友だち  
水あそびの仲間がそろつたよ〜



おもちゃの



カメヤ

三宮方面のお買物は…

さんちか店 ファミリータウン ☎ 391-4045  
三宮店 センタープラザ ☎ 331-4969

元町方面のお買物は…

元町店 元町通3丁目山側 ☎ 331-0090  
パンプラ店 元町通1丁目不二家前 ☎ 391-0768

神戸駅前方面のお買物は…

サンシーラ店 神戸駅前地下街 ☎ 351-6002

おもし  
てんぶら



紫  
煙  
舗



本店

大丸前・三宮神社東

TEL(331) 5677  
5773 4

(毎週水曜日休み)  
さんちか味ののれん街  
(第3水曜日休み)

営業時間  
A.M.11.30~P.M.9.00

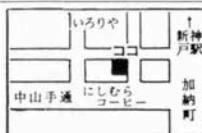
北野町の坂道のほとりにある目立たない小さなサロン神戸時代。  
このサロンから新しい時代の波をと思っています。



- 神戸時代ギャラリーのごあんない
- 5月上旬まで 現代フランス版画展
- 5月末まで フランス絵画ポスター展
- 6月より 松谷武判展<在パリ>

## SALON 神戸時代

神戸市生田区中山手通1丁目28  
モンシャトーコトブキビル 1F  
TEL. 242-3567



## 日本海直送の

# 活魚 料理

日本海でとれた新鮮な旬の魚を  
直送便で……その魚を皆さまの  
ご注文に応じて熟練の調理士が  
盛りつけます。

お1人さま 3,000  
～ 6,000円



日本料理の店

 **斐三籠** (Bîsan-bako)

電話 (078) 321-6363  
神戸・三宮阪急西口北側レインボープラザ1・2F

神戸百店会  
だより



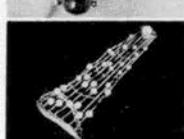
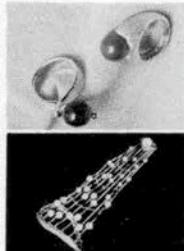
真珠を手にうつと

やつぱりよく似合う  
'75年度ミスユニバースの  
アンネ・マリ・ボホタモ娘  
が来日。四月三日、ミスユ  
ニバースの王冠をつくって  
いる田崎真珠を見学した。  
憧れの日本、しかも真珠  
工場の見学とあってブロン  
ドを風になびかせながらニ  
サンコンニチワ」と日本語  
でいいさつをするなど愛嬌  
をふりまいていた。その彼  
女も真珠のネックレスをブ  
レゼントされた時は、大感  
激。真珠のような涙を流す  
一幕もみられ、神戸の休日  
を存分に楽しんだようだ。

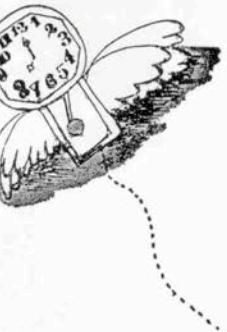
（上）石井よし子さんデザインのブ  
レスと指輪（下）市川栄五郎さん  
のラピスラジュールリング

★TVドラマ「花ぼうる」  
に不二屋の家具が。

毎週月曜日夜十時から始  
まる連続ドラマ「花ぼうる」  
（主演・島田陽子）にトア  
ロードの不二屋の家具が登  
場している。



特製メニュー“潮騒”  
お1人様 ¥4,800  
期間 5月31日まで



★世界一の美女と真珠

やつぱりよく似合う

アンネ・マリ・ボホタモ娘

が来日。四月三日、ミスユ

ニバースの王冠をつくって

いる田崎真珠を見学した。  
憧れの日本、しかも真珠  
工場の見学とあってブロン  
ドを風になびかせながらニ  
サンコンニチワ」と日本語  
でいいさつをするなど愛嬌  
をふりまいていた。その彼  
女も真珠のネックレスをブ  
レゼントされた時は、大感  
激。真珠のような涙を流す  
一幕もみられ、神戸の休日  
を存分に楽しんだようだ。

★オリジナルの宝石を

四月九、十日と大阪ロイ

ヤルホテルでミキモト春の

特別展示会が盛況のうちに

行なわれた。今回は「自分

だけのジュエリー」という

新しい分野のために、各界  
で御活躍の十六の方々に  
ユニークなアイデアを披  
露していただきといった変  
わった趣好。宝石はそれ自  
身、個性豊かな存在である  
のでオリジナルティの高さ  
をもつと見通す時代ですね

主人公の部屋のインテリ  
アに使われているのが、全  
部不二屋さんの家具。△母  
が娘のために心をこめてこ  
の部屋をつくりあげた△と  
おとどけします

★初夏に浜辺の味と香りを

おとどけします

パのクラシックな雰囲気と  
白い色が何とも女の子らし  
い家具が選ばれている。

★セントラーブラザ地下一階のベル  
日営店「APPLE」が、四月十  
日オープンしました。アクセサリ  
ー、雑貨、インテリア用品などあ  
なたのお部屋をより楽しくしてく  
れるもの一杯です。

●ショットピック



「花ぼうる」の一場面

★その他の商品が乾いてくる季節  
ニユートーキョーでは、四月十六  
日（金）より、さんプラザビアガ  
ーデンと三宮ビル屋上ビアガーデ  
ンがオープン。会社帰りに生ビ  
ルをキューと一杯／＼こたえ  
られませんね。疲れもいっぺん  
に吹飛んでしまいそう。多勢の時  
にはビヤ樽サービスでどうぞ。

★神楽ビル7階、ブランドウ  
プランの今月のチーザセシヨン  
メニューをお見せしめしましよう  
エスカルゴブルゴニュ風はワイ  
ン付で1000円、舌ひらめ蟹コ  
ロッケ詰800円、若鶏煮込みイ  
ンド風700円、仔牛のカツレツ  
ミラノ風700円、サーキロイン  
ステーキフレステイベル550  
円などです。チーフが自信をも  
ってお勧めする味です。

★この春はブラウスが見直されて  
います。ジョーゼットの花柄の  
ドレッシーなブラウスから揚抑の  
格子のブラウスまで、TPOに合わせて  
うまくスカート、パンツと組  
合わせおしゃれを楽しんで下さい  
ベニヤでは、豊富に揃っています  
あなたの気に入りが見つかるこ  
とでしょう。

★自然の素材が人気を呼んでいる  
この夏、ペッ甲ブームが静かにお  
こっています。NOWな女の子な  
ら細いペッ甲のブレスレットを2  
・3本まとめて腕にいかがでしょ  
う。太田ペッ甲には、若い人向け  
の各種アクセサリーがあります  
お値段だてそんなに高くはない  
んですよ。



かれて兵庫県下で初の街並保存の連絡会が結成された。

現在、全国各地で歴史的な街並や景観が都市化の波によつて急速にその面影を失いつつある。神戸でも二年前に「北野界隈いを守る会」(宇津宮隆夫代表)

が結成され、北野を中心とする街並、景観の保存に取り組んでいたが、今回の連絡会には参加およびかけ団体として県下からは北野、赤穂、竜野、篠山、築地(尼崎)の他、大阪「中之島を守る会」及び「富田林寺内町保存会」の各代表が出席しそれぞれの地域が直面している様々な問題について意見の交換が行われた。

北野界隈いを守る会

神戸市葺合区御幸通三丁目一(一〇〇

電話〇七八(二二二)六七〇五

★神戸広告マッチ組合より

神戸まつり記念マッチ登場

神戸広告マッチ組合(吉田勤会長)は、共同事業の一環として、郷土の画家、川西祐三郎画伯による記念マッチを制作し、各界に無料配布することになった。

マッチはケミカルシュー

れの業界、神戸まつりになんでもテーマを神戸の海山街をモチーフとした素晴らしい版画が期待できそうだ

## ★行楽シーズンに先がけて

### 六甲山牧場衣替え

四季を通じて家族連れや若者のグループでぎわつ

ている六甲山牧場が、四月

一日より大幅にモデルチ

ンジした。この牧場のもつ

恵まれた自然景観と山岳牧

場としての豊かなボテンシ

ヤリティを高めて、都市住

民のための健全なクリエ

ーションの場、特に人間と

動物と自然のふれあいの場

となつていつほしいも

の。これからは神戸の市花

であるあじさいの色付くシ

ーズンとなり、ますます多

くの利用者が予想される。

入場料 大人 一〇〇円

改装された六甲山牧場

## ★かわいいかわいい

### 版画集発刊

画家の徳永卓磨さん(灘

区在住)が「スペインの子

どもたちへ」という版画集

を出版した。フラメンコが

好きだという徳永さんは、

七年程前にスペインへ渡り

一年間暮らした。その後も夏

の休暇を利用してはスペイ

ンへと、たいへんな物れこ

★さんちか広場

ヤマハフェア!

第二回炎巣公展

宗龍書道院展

書画の名品と茶道具展

にもどんどんリクエストし

て」と内藤国雄氏も大乗り

氣である。

★ギャラリーさんちか

神戸民芸美術教室 日本画展

現代彫刻作家展

「百花遠」

第30回兵庫県美術家同人展

松本晃光日本画展

日原晃光日本画展

井上速男油絵展

★そごう百貨店美術画廊

「百花遠」

第30回兵庫県美術家同人展

松本晃光日本画展

日原晃光日本画展

井上速男油絵展

★大丸百貨店四階美術画廊

「百花遠」

第30回兵庫県美術家同人展

松本晃光日本画展

日原晃光日本画展

井上速男油絵展

★甲子年日本画展

第30回兵庫県美術家同人展

松本晃光日本画展

日原晃光日本画展

井上速男油絵展

★KCCギャラリー

第30回兵庫県美術家同人展

松本晃光日本画展

日原晃光日本画展

井上速男油絵展

★中国古陶名品展

第30回兵庫県美術家同人展

松本晃光日本画展



## 美術ガイド



内藤国雄さん(上)とレコード

ジャケット(下)

★兵庫県立近代美術館

特別展「屏風と版画」

5/1~5/30

★南蛮美術館

南蛮紅毛美術展

4/3~6/6

★白鶴美術館

出光美術館名品展

4/29~5/30

★香雪美術館

書画の名品と茶道具展

3/10~6/13

★さんちか広場

ヤマハフェア!

5/1~5/30

★第二回炎巣公展

宗龍書道院展

書画の名品と茶道具展

3/1~6/13

★ギャラリーさんちか

神戸民芸美術教室 日本画展

現代彫刻作家展

「百花遠」

第30回兵庫県美術家同人展

松本晃光日本画展

日原晃光日本画展

井上速男油絵展

★そごう百貨店美術画廊

「百花遠」

第30回兵庫県美術家同人展

松本晃光日本画展

日原晃光日本画展

井上速男油絵展

★甲子年日本画展

第30回兵庫県美術家同人展

松本晃光日本画展

画集、とってもかわいい本

五五〇円。

お問い合わせセリ徳永草磨  
神戸市灘区  
篠原中町一丁目一ノ四  
（三六九又は月刊神戸子まで）

★源氏をうたう筝の会

筝曲の小倉万智井さん

（灘区畠原通五ノ三ノ一五  
63才）が、山田流の師籍三

十年を機に「筝苑会」を、

二世の美紗能さん（39才）

と共に、記念演奏会を、神

戸文化ホール（小）で五月

二十九日午後二時半より開

く。△一五〇〇円△

小倉万智井さん（下）親子

と美紗能さん（上）と美紗能さ



## 花時計



前略――暴走族さま

また、神戸まつりがや  
つてきた。神戸カーニバルと  
みなどの祭が合併され  
て「神戸まつり」にな

つて今年が6回目である  
第一回目の「神戸まつ  
り」は時に神戸開港百年  
にもあたつたこともあつ

て大変な賑わいであり神  
戸まつりのベースが出来  
た。元来「みなとの祭」  
が神戸の代表的な祭であ  
った。ところが都市交通  
の事情と相まって規模が  
縮少され、次第に面白く  
ない祭りになり、市民か  
らも見離され、官製のお  
祭りといつたレソナルが  
貼られ「時代行列」を迎  
える人さえいなくなつた。  
そこに、市民が主役だ  
という形で華やかに登場  
したのが神戸カーニバル  
市民に回を重ねるたびに

川由美子（野川由美子）が家出した京都  
の染屋の嫁・光子（萩尾みどり）に神戸を案内するシ  
ーン。少し風が強くて寒い  
この日のロケは、深雪（野  
川由美子）が六甲山よ」と実際に説明  
する野川さん、リラック  
したムードの中で撮影は進  
められた。放映は五月三十  
一日夜八時。

四月から始まつたNHK  
のテレビドラマ「花くれな  
い」（月曜夜8時）の神戸  
ロケが三月十七日、中突堤  
から出る港めぐりの遊覧船  
の上で行なわれた。遊覧船  
「新しい女の生き方を描い  
た」（和田浩明ディレクタ  
ー）このドラマ、舞台は大  
阪と京都が中心で神戸との  
関わりはほとんどないが、  
この日のロケは、深雪（野

川由美子）と「古今和歌集」の作品を  
集めて演目し、中能島欣一、  
慶子師を迎えて、「柴式部」  
葵の上）の他、「鶴寿千歳」  
では欣一師の珍しい三弦が  
きけるというプログラムだ  
★野川由美子と萩尾みどり  
神戸港でロケ



「花くれない」の船上ロケ

本格的な賑わいを見せ  
じめ、みなとの祭をしの  
いだ。そして神戸まつり  
が誕生した。「その神戸  
まつりもなぜか縮少ぎみ  
になつた。昨年の神戸ま  
つりに暴走族が名実とも  
に大暴走―その結果であ  
るが、暴走族のエネルギー  
をはねかえすだけの  
祭のエネルギーがなくな  
つた、そう見える。

この辺で神戸まつりも  
出直しかも知れない。そ  
して、これこそ創られた  
祭の宿命なのだ。△Y△

KOBE POST

★神戸市経済局長の玉田暁昌氏は  
4月1日より酒類局長に、後任は  
宮崎義雄氏が就任されました。

★神戸地下街から3月24日の定時  
株主総会取締役会で、代表取締役  
宮崎義雄、代表取締役専務取締役  
重村実治、常務取締役森本泰好、  
取締役西崎勤、柴谷貞雄、森駒之  
助、谷植繁光、多田政文（新任）  
監査役岡崎忠、狩野学氏が選ばれ  
就任されました。

★ケチ本さんと吉本晴彦氏が、4  
月16日にオープン。吉本管理事務  
所と吉本土地建物KKの事務所を  
4月5日から移転されました。新  
住所大阪市北区梅田4番地（大阪  
マルビル31F）△六（三四）

一一八七（代表）

★宝塚歌劇団では4月1日から定  
休日（宝塚大劇場並びに各事務所）  
毎週水曜日を実施。他に1月1日  
月28日、3月20日、4月7日、4  
月28日、5月5日、7月20日、1  
月31日を春夏秋冬のお休みにとの  
ことです。

★神戸音楽友の会前事務局次長の  
寺井昭子さんが、俳優座の武内享  
さんと結婚され、新住所はお知ら  
せがありました。新住所は東京都  
杉並区上高井戸一ノ二七〇八  
△三〇三（三〇四）一二二二

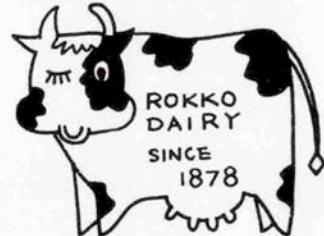
★舞台監督の中倉敏博さんが転居  
されました。新住所は東京都西宮市  
老松町一五〇三〇二二〇  
七九〇七（七九三一七九

★大丸前の靴のヨシオカの吉岡潔  
さんの長男達彦さんが、本間勝さん  
の長女恵さんと4月30日オリ  
エタルホテルで結婚され、ヨーロ  
ッパへ新婚旅行、5月15日よりオ  
ンタルホテルのばらの間で披露  
パーティを開かれます。おめでと  
う！

★神戸を愛する山川勝彦さんが、  
神戸のスケッチ展を4月19日より  
日迄大阪今橋画廊で開かれました

# フレッシュな味。 神戸生れの六甲牧場

★喫茶店・洋菓子店に！



牛乳  
生クリーム  
ケーキ用クリーム  
コーヒー用クリーム  
各種アイスクリーム  
ソフトミックス

株式会社  
六甲牧場

神戸市灘区篠原南町  
6丁目1-25 〒 657 (078) 801-6000

★ご用命しだい営業マンが直ちにお伺いします。

世界最高の品質を  
誇るアラガワの支店

いろいろなパーティーを  
ご予算に応じてどうぞ



レストラン  
砂時計

正午～夜9時まで  
(年中無休)

生田区山本通1丁目35  
東洋ハイツ1階  
TEL 241-1857

# ブリューゲルへの旅

伊藤

誠

△神戸新聞文化事業局第一部長

予定ではもつと後にするつもりだったブリューゲルをつい書き始めてしまったのは、最近、中野孝次氏の本項と同じタイトルの書物が出版されたこと、もつともそれだけでは同好の士あり、ぐらいの気持ちだったのが、読み進んで「……東京でわたしを待っているうつとしい関係のことは頭に浮かばず、わたしのまわりから一人ずつ消えていった者たちが、いまは親しく思い出される。だいたい今度突然旅に出たのも、身近な一人の知人が死に自分の仕事がすっかりいやになつて飛びだしてきたようなものであった……」といった著者の感慨

に触発されたせいである。似たような年齢、親友の死という似たような状況が、どうやら共鳴を強くさせたようだが、思い切つてヨーロッパへ旅立ち、何度も目のブリューゲル対面を果たされた中野氏に比べると、当方は余りにも意気地ないけれども、せめて頭の中ででもブリューゲルへの旅をなぞってみたい。と、何となくせきたてられる思いがしたのである。

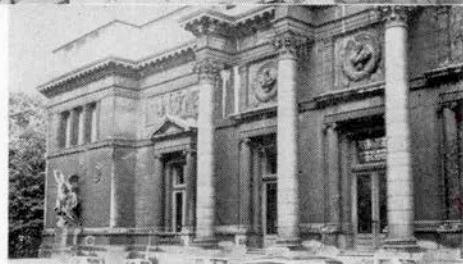
ビーター・ブリューゲルは“百姓ブリューゲル”といふ呼称を持つベルギーの画家である。存命していた十六世紀でいえば現在のオランダと一つだったネーデルラントの画家だ。日本ではビーテルともベーテルとも言われたりしている。生年ははつきり分からぬ。彼が画家として組合に登録された記録などから推測して、一五二〇年から三〇年の間、どうやら二五年あたりがそうらしい、ということになっている。二十代半ば過ぎにフランス、イタリアへ旅行し、

当然のことながら絵を勉強、帰国してからボッシュ風のデッサンや版画の下絵を描いてデビニーした。ボッシュというのは、彼が生まれる十一年ぐらいた前に亡くなつた同国の、いわば先輩画家である。非常に幻想的な、しかもグロテスクなムードの濃い、悪夢のような宗教画を描いて



上：「雪の山道を帰る獵師たち」（ウィーン美術史美術館所蔵）

下：ウィーン美術史美術館



上：「ペツレヘムの人口調査」（ブリュッセル王立美術館所蔵）  
下：ブリュッセル王立美術館

んだのはその先見を讃えてのことであった。宗教をテーマとしたものや、王侯貴族の肖像画のみを絵画だと考えていた時代の“百姓ブリューゲル”的呼び名は、絵の内容からして二流、三流としか評価し得なかつた世間のさげすみをも含んだ声であったろうが、今や親しみと敬意のこもつた愛称に変わつたわけである。

さて、ブリューゲルを観るなら、まずはオーストリアのウイーン美術史美術館であろう。この、彼の油絵十五点の収集はまさに圧巻。現版画の出版元などは、それが人気のあつた不思議な画家だ。評判が良かつただけにボッシュの後継者が欲しかつたのである。ブリューゲルは、その要請に応え得る技術をもつたわけだ。もつとも、やがてボッシュ離れをし、彼独自の画風を確立したことはいうまでもない。その特色を一言で表現したのが“百姓ブリューゲル”的通称なのである。

ブリューゲルの絵の題材を見てみると、ざつと二つに大別できる。一つは聖書から取材した内容の系列、他は現実の農民生活を描いた内容の系列である。そして前者にはボッシュの影響を受けた幻想画が含まれるし、後者にはことわざを基底にした庶民の風俗画や人物のいらない風景画が含まれよう。ここで特筆されるのは、それまでの画家が全く対象としなかつたごく平凡な人の日常生活を、特に農民を題材として彼が描いたことだ。自然の風景を單なる背景でなく独立した題材としてとらえた意図も、同じところから発している。当時、美術用語としてのリアリズムという言葉などもちろん無かつたけれど、後年十九世紀に入つて現実を写すことの重要性が強調され始めた時、彼を“リアリズム絵画の先駆者”と呼

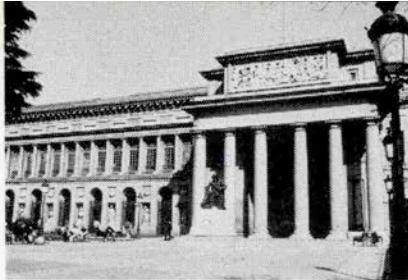
美術作品が、ある一定の場所へ集まつてくるについて

は、執念にも似た一途にほれこむ人の存在が絶対に必要だと思われる。特にブリューゲルの場合、當時人気があつたとは言え決して一流と認められなかつた画家だけに、王家などが購入することは稀だつたろう。パトロンとして四人の名前が残つてゐるが、その中の一人友人ヨン・ヘリンクが現ウイーン・コレクションのほとんどの元・所有者だつたとされている。裕福だつた彼が財政逼迫して絵画コレクション全部をアントワープ市へ抵当に入れ、市はやがてこの地方の総督としてやつて來たハプスブルク家のエルンスト大公に献上。大公はどういうわけかブリューゲルが気に入つて（この大公についてくわしいことは何も知らないのに、ブリューゲルに対する彼の気持ちだけで、私は大公に親近感を抱いてきている）。他の作品をも探しては購入。（この時画家はすでに他界）。また大公の兄・皇帝ルドルフ二世もブリューゲルを至極愛好、ということでかなりの数がワインへ集まつたようだ。ブリューゲルにとっては幸いなことであつた。もつとも後には出て行つてもいるようで、例えはアントワープ市獻上品の中の“十二カ月図”シリーズ六点のうちワインに現存するのは三点。他の二点は現在チエコスロバキヤのプラハ国立美術館と

ニューヨーク・メトロポリタン美術館にあり、残る一点は行方不明という状態。ロンドン・ナショナル・ギャラリーの「東方三博士の礼拝」も元ワインの所蔵品だつたはずで、どういう経路でか同ギヤラリーが購入したのは今世紀一九二〇年のことだ。それにしても、ワインのものは世界屈指のブリューゲル・コレクションに間違いない。

#### ブリューゲルの魅力は何なのだろう。

右:「死の勝利」(プラド美術館所蔵)  
左:マドリード・プラド美術館



日輪をバックにした大天使と化け物のような反逆天使たちとの闘争の図がある。悪しき者の糾弾、罪ある者は地獄へ落ちるその教え。（「反逆天使の墜落」ブリュッセル王立美術館）骸骨に象徴される死神の軍団が人間世界を侵略しつつある図がある。いかに榮耀榮華をほしままにしても人間の行きつく先はすべて死。その死の化身は積極的に人間どもを亡ぼしにかかっている。（「死の勝利」スペイン・マドリード・プラド美術館）とともにボッシュの流れを汲む夢想のような幻想世界の定着だが、その地獄図と見まごう奇つ怪な画面の、これはまたグロテスクな美しさはどうだ。反逆天使の醜さに自己の内面を投影させられ、骸骨軍の進撃に現実生活の安易さを思い知らされる人は多かろう。

天に向かつて巨大な塔を築いてはいるが、その完成の覚束なさ。（「バベルの塔」ウイーン美術史美術館、オランダ・ロッテルダム・ボイマンス美術館）ギリシヤ神話のイカロスは太陽に近づき過ぎ翼を固めたロウが融けて海へ墜落するが、周囲で働いている農夫や釣り人たちの無関心なこと。（「イカロスの墜落」ブリュッセル王立美術館）人間の小さかしさに対して自然の存在や運行は無限と思えるほどに大きい。壮大な構図とおおらかなこしらえ。

彼方の丘目ざして群衆が駆けて行く。丘の上には早や人の輪が出来て何か事態が起きたのを待つてゐる。何を？ 画面中央人ごみにもまれて十字架を負つたキリスト

が小さく見える。きょうは処刑の日なのだ。（ゴルゴタの丘への行進）ウイーン美術史美術館 雪の降り積もった村の集会所へ大勢人が詰めかけている。何だろう？ 人口調査の届け出で、そこへ急ぐ人群も幾つか見える。その中の男女一組が、引き連れた牛とロバに象徴されるマリアとヨセフ。（ベッレームの人口調査）ブリュッセル王立美術館 聖書の中の著名場面が、主人公であるキリストやマリアを特別視せず、全く群衆の中の一人の男、一人の女として描かれている。事件を傍観する作者の冷静な目。

雪の山路を獵犬を連れて村へ下る獵師たち。眼下の池では大勢の小さな人影が氷すべりを楽しんでいる。

（雪景色の中の獵師たち）ウイーン美術史美術館 決して美人ではないが健康で福々しい新

婦を中心

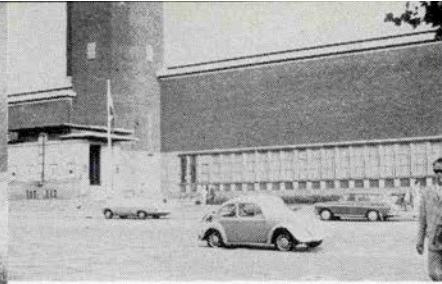
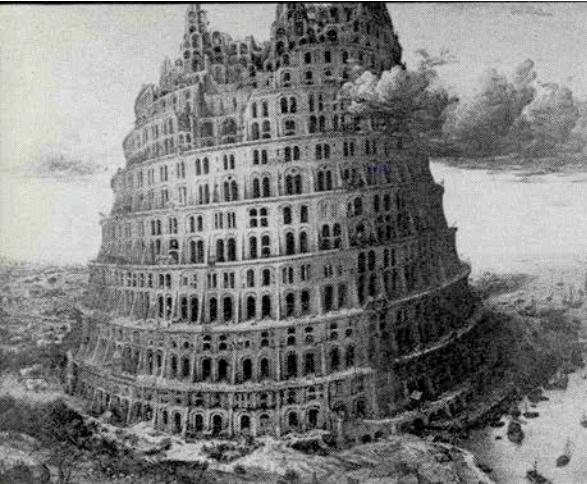
に、村の結婚披露宴が開かれている。

新婦を一人にして新郎はどこに居るのだろう。（婚礼の宴会）ウイーン美術館 一方は大自

抱かれて、きびしいけれども心安らぐ風景。他方は厚い人情に包まれて、貧しいけれども心暖まる風景。ブリュッセルの作品に貫いているのは、人間はまさに卑小な存在だという姿勢である。彼の作品の前に立つと自然に心が落ちて行くのは、所詮われわれは小さな、つましやかな存在に過ぎないということをしみじみ納得させてくれるからだろう。地位や名譽で多少起伏が世間に出来ても、あるいはたとえ大きく歴史を動かし得たとしても、所詮人間の帰るべきは大地、自然。四十数歳で亡くなつた“百姓ブリュッセル”は、庶民の日常生活を通して人間の心の在り方を描破した。

美術館の作品を思い起こすと、そこを訪ねた時のささいな出来事がふつと浮かんで来る。美術館横の居酒屋風レストランで、食事中にからんで来たウイーンの酔っ払い。出立便に間に合うようにと美術館を出て飛び乗つた料金の四倍もする紙幣を取り込んで遂に釣り銭を戻さなかつたブリュッセルのタクシー老運転手。特急電車で車中一時間向かい合わせていたものの夏風邪の鼻水が止まらずめいわくがられたロッテルダムの若い尼僧さん。せっかくテーブルまで来てくれたのに話が進まず残念だったマドリードのフラメンコ・ダンサー……等々。あのたちは今どうしているだろう。それぞれの生活を真摯に送つてゐるに違いない。亡くなつたお年寄りもいるだろうか。元気でも恐らく二度とは会えない人たちだろうが、また行つてみたいものだ、ブリュッセルへの旅に。

右：ロッテルダム・ボイマンス美術館  
左：「バベルの塔」（ボイマンス美術館所蔵）



# ★神戸っ子

## トラベルコーナー

### 神戸っ子海外旅行ご案内

#### ★ レオナルド・ダ・ヴィンチ (イタリア豪華客船 33,500トン) 地中海の旅

く7月6日出発。パリ、ニース、モナコに立寄り、ジェノアより乗船

費用／￥940,000 (船室により費用が変わることがあります)

定員／10名 フーストクラス、シャワー付2人部屋

#### スケジュール

7月10日 ジュノア発

7月11日 バレルモ (シシリー島) 着

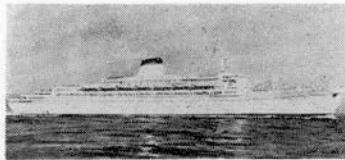
7月14日 マディラ着

7月15日 ラスバルマス (キャナリーアイランド) 着

7月16日 カサブランカ (モロッコ) 着

7月20日 ナボリ着

7月21日 ジュノア着



イタリアの豪華客船「レオナルド・ダ・ヴィンチ」

お問合せ、ドットウェルトラベルサービス神戸。

TEL 078 (251) 0021。担当島村

### KP 小泉パーティのご案内



毎日好評の楽しいパーティ風景

#### ★ 独立の地を訪ねるアメリカ10日間

く7月23日(金)～7月30日(金)～8月6日(金)～

費用／大人 ￥488,000 小人 ￥440,000

東京→ニューヨーク→ボストン→ワシントン→ニューポートニューズ→ウィリアムズバーグ→リッチモンド→シカゴ→ロサンゼルス→東京  
全行程3食付。ただし終日自由行動日の昼食を除く。

#### ★ サンフランシスコ 6日間

出発日／6月11日(金) 大阪発

費用／￥198,000

#### ★ ハワイ 6日間

出発日／6月22日(火) 大阪発

費用／￥138,000

#### ★ 好シーズンのヨーロッパーパリ 8日間

出発日／7月3日・6日・10日

費用／￥238,000

#### ★ カナダ 9日間

出発日／8月7日・8月12日 大阪発

費用／￥378,000

日本旅行神戸中央海外旅行センター 078(321) 1310

#### ★ ロスアンゼルス 6日間

日程／6月18～23日

大阪→東京→ロスアンゼルス→東京→大阪

40名・食事なし

費用／￥168,000

#### ★ カナダ 7日間

日程／6月1日～7日

東京→バンクーバー→ジャスパー→バンフ→バンクーバー→東京

費用／￥268,000

#### ★ ハワイ 6日間

日程／6月25日～30日

大阪→東京→ホノルル→東京→大阪

40名

費用／￥138,000

近畿日本ツーリスト株式会社 (078)391-2401～3

#### ★ 朝日友の会特別企画

アロハ・ハワイツアーア泊6日コース

大阪より￥145,000円

出発日／5月13日(木)・5月21日(金)・5月25日(火)

大阪→東京→ホノルル→東京→大阪

お説明会お申込み下さい。

朝日海外旅行株式会社

#### ★ モスクワ・レニングラード・リガツアー



日税／7月23日(金)～8月6日(金) (15日間)

費用／￥388,000 ホテルフーストクラス

東京→モスクワ→レニングラード→リガ→モスクワ→ハバロフスク→ナホトカ→客船「ブリアムエリ号」→横浜

暑い日本の夏からしばらく解放され空気と空と緑の美しいソ連での15日間は参加される皆様に満足して頂けるものでしょう。

日ソ協会兵庫県支部連合会 (078)331-6093

お問合せ、お申込みは神戸っ子トラベル係へ

TEL 078 (331) 2246

入会金及び年会費は…

・入会金 10,000円

・年会費 10,000円

(必要に応じて調査費35,000円をお願いすることもあります)

「ごあんない」入用の方は下記までご連絡下さい。

神戸市芦屋区浜辺通り6丁目3-13

ニューポートホテル1131号 ☎078-252-1380

小泉パーティ事務局

代表者 小泉正巳



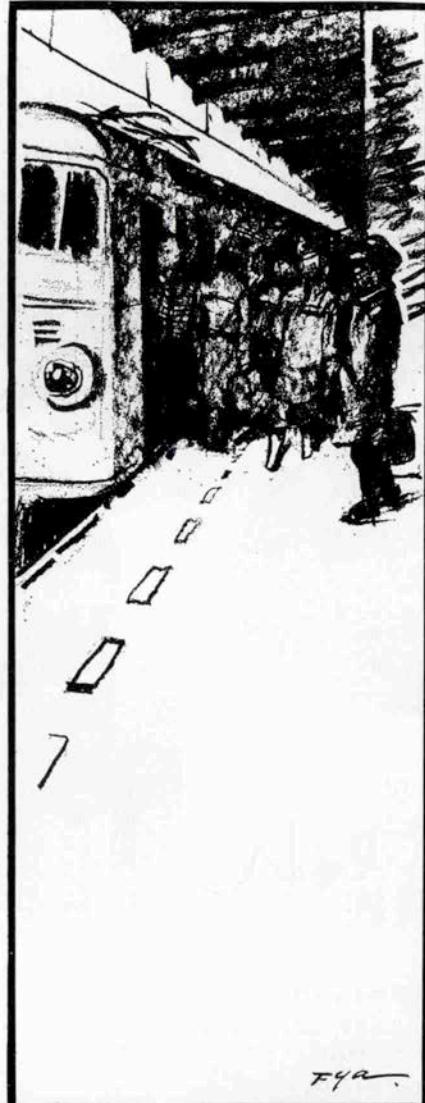
神戸市生田区中山手1丁目24ノ7  
 TEL 078 (241) 0980 (242) 1925  
 大和ナイトプラザBF  
 PM 6:00~PM12:00

夜に咲く薔薇は  
 あまく、せつなく  
 華麗な香りを放つ  
 「レディスタイル」  
 女性のために捧げる  
 甘美なおしゃれ貴族  
 のひとときは  
 一輪の薔薇  
 〈指名制〉  
 との出会いから始まる

〔午後8時  
 12時〕

# 播州路

福元早夫え・山本文彦



しい家族たちの声がきこえる。

かあちゃん」と泣き声でいいながら忍びよっていき、母のモンペをしつかりつかんだ。すると母はとびあがつ

ておどろき、すぐさま血相を変えた。

ぼくの襟首をつかんで外へつれだし、母は怒った。こへ来てはいけない、あたしは、もうあんたの母ちゃんじやなか、約束したじやなか、姉弟じやと、よかかわかつたか、と、周囲に気をくばりながらきびしい声でいった。それから、祖母ちゃんのところへ帰えれ、と、闇にむかってぼくの背中を押した。

「かあちゃん……」  
と、ぼくは声をころして呼んだ。奥の座敷に、母の新

冬子は雪の降るさむい日に生まれた。母は嫁いでから二年目に子供を生んだ。女の子だった。それが冬子だった。

母の嫁ぎ先は、辺鄙な山間の一軒屋だった。母をたずねて、ぼくは深い山道を何回か歩いたことがある。山を越え谷をいくつものりこえていかなければならなかつた。谷間の一軒屋の灯がみえるころ、日はとっぷり暮れていた。ちかづいていくと、台所のうす明かりの中に母の気配がする。

「かあちゃん……」

ら、ぼくは泣いた。なきながら母をにくんだ。だけど、なぜか憎みとおすごしができない。だからぼくは自分をいじめた。おいどんなんか生まれてこんぼうがよかつたといじや、といじめ、いじめておいてまた爆発的に泣いてしまった。

闇の中で山彦がないた。そのせつないなき声をききながら、ぼくは、南太平洋で戦死したという、父のことを憾んだ。父さえ生きていれば、こんな境遇におちこむことはなかつたのだ。父ちゃん、なぜ勝手に死んだ……。

ぼくは闇にむかって叫んだ。だけど、死んだ人間をうらんだとて、いまさらどうしようもなかつた。それに、父の記憶はなにもなかつた。父を憾むいつさいの手がかりをぼくはもつていなかつた。

深い山道を歩きながら、ふいにぼくは、死んでやろう、とかんがえた。あの高い木の、頑丈な枝に首を吊って、母を困らせてやろう、と真剣に思いつめた。だけど、そんな勇氣など、あるはずがなかつた。

母は、冬子を産むために里帰りしてきた。そのひと月ちかくの間、ぼくはとてもしあわせだった。かつての、母との生活がよみがえってきたのだ。こころうきうき、ぼくは、はしゃいだ。ちようど、小学校一年生だった。

以前にくらべ、母のぼくに対する態度は、あたかくはなかつた。だけど、そんなことなど、どうでもよかつた。ただ、目のとどくところに、母がいてさえくれれば、それでぼくは、とつてもこころが安まるのだった。

母が産氣づくと、夜空に雪が舞いはじめた。正月のちごろだつた。祖父は囲炉裏にどつさり薪を燃やし、家じゆうをあたためた。奥の部屋で、冬子とたたかっているらしい母の、苦しまぎれのうめき声がきこえる。祖母はかまどに湯をいはせている。ぼくは祖父の膝にだかれて、目をじつとじていた。いろいろの炎で、身体じゆうが燃えているみたいだ。

母がふりしほるような最後のうめき声をあげた。囲炉

裏の炎が、音をたててはじけあつた。祖父がぼくを抱いた腕に力をこめた。

と、そのとき、冬子が叫び声をあげた。麦わらぶきのわが家をゆるがすような鋭い泣きこえをあげながら、ちいさな肉の塊みたいな冬子が、突然、ぼくのまえにあらわれた。

ぼくは、母の、身もこころも、さらに、魂をも絞りだすようならぬめき声をききながら、すべてを了解したような気持になつた。

そしてさらには、ながい沈黙とふかい静寂を突如にうちやぶつてあらわれた冬子の、胸をつき刺すようなするどい叫び声をきいていながら、ぼくは、自分を悟りとつた。

母が、嫁ぎ先へ勝手にきてはいけないといったこと。あたしはあんたの母ちゃんじやなくなつた、といったこと。これからは母子じやなくて姉弟なのだ、といったこと。

それらのすべてをぼくは了解し、自分の立場を理解しなければならない、といつた、せつぱつまつた気持になつたのだ。

ぼくはぐつと奥歯をかんで涙をのんだ。無性にさびしく、やるせなかつた。

ひと月ちかくがあつという間にすぎた。母は冬子を抱いて、隣村へかえつていつた。

ぼくもふたたび、祖父母たちとの生活にもどつていつた。だけどそれは、以前のそれとは大きく異つていた。ぼくはもう、母を恋しがつたり、影を追いかけたりしなかつた。

さむい冬が明けて春がきた。冬子は順調にそだつていつた。

暑い夏の季節がやつてきた。雪の降る夜に生まれた冬子にとつて、南国の強烈な太陽との、はじめてのでいいがやつてきたのだ。

うだるようなあつい夏。それは試練ともいえた。大人でもまいってしまう夏に、おさない冬子はまけてしまつ

たのだった。

重い病にかかってた。意識不明を、一週間ちかくつづけた。日本脳炎らしかった。それに、運のわるいことに、小児マヒを併発していたのだ。

医者は首をよこにふりつづけた。冬子は、不明な意識のなかで、病とたたかいつけた。両親は、付きつきりで、両手を合わせて祈りつづけた。

奇跡だ、といって、医者は目をまるくした。冬子は、とうとう病にうち勝ったのだ。重苦しいふたつの病の、まつ黒いマントを自力で払いのけ、ふたたび鋭いさけば声をあげはじめたのである。ちょうど、台風の夜だった。外は、風速四〇メートルの嵐だった。

冬子の部屋は、こじんまりとしていて、よく整理されている。机のまえの壁に、「努力目標」が貼りつけられている。二杯目のコーヒーをすりながら、ぼくは読んでいた。

自分を大事にすること（それは他人を大事にすることと同じことである）

他人に呼ばれたら、はい、と元気な声でこたえること

耐えること（ぐつと鋼を噛む思いで）

故郷を忘れぬこと

冬子らしかった。と同時に、それのことばは、ぼくのものでもあった。彼女がはじめて播州へきたとき、ぼくは自分自身を語った。中学を卒業して、工場で大人になるまでの、ぼく自身のこころの青春を語ったわけだ。

鉄をつくる、昼夜三交替の現場の仕事はつらかった。耐えなければならなかつた。夜勤はねむい。汗と油に汚れて、くたくたに疲れて、自分をぼろ布のように感じた。耐えるのそつとむこうに、故郷が光っていた。まぶたのうらがわに、母がすみついていた。

しかし、冬子の知らない秘密の世界、それには決してふれなかつた。そこは、彼女には、何らかかわりのない世界だつた。

「がんばっちょるな」

と、貼り紙の方に顎をしゃくりながら、ぼくは励ます。ようやく、それでいてちよびりひやかすようないいかなをした。

「まあね」

と、はずかしそうに冬子がいつた。

「がんばらなくちやあ」

とぼくがいつた。

「でも……」

と、努力目標を目で追いかけながら冬子がいつた。

「でも、むずかしいことやわ。真似でもいい、そのうち慣れて、自分のものになるかも、って思つていいけど……」

というと、冬子はちいさく笑いながら、自信なさそうに小首をかしげてみせた。

乳児期におもい病にひきずりこまれた冬子は、その後、病弱な体質を否応なくされた。瀕死の世界に片足をつっこんだせいで、右の足をわるくした。ころなしかびっこをひく。しかしそれは、よほど注意して観ないとわからない。

ときどき冬子は、顔色が急にあおざめ、その場にしゃがみこんで、自分で自分をしつかりかかえこむことがある。見ていられないくらいにかわいそうだ。だけど、だれも手をかすことはできない。彼女は自分に耐え、そしてたかわなければならないのだ。

「……がんばらなくちやあ」

と、ぼくはまた同じことをいつた。

「そうね、がんばらなくちやね」

と、明かるい声で冬子がいつた。

彼女は病の影を背負い、おまけに、足にまでひきずつて、それでも強く生きつけなければならぬのだ。がんばる以外にない。

「修一からは、たまには手紙がくるんか」

ぼくは話題をかえた。



「修ちゃんはだめね、電話もくれへんのよ。お母さんもぼやいていた。故郷にもさっぱり音沙汰しなんだって」

「男子やからなあ、遊ぶことがいっぱいあるから」

「でも、たまには手紙をかくべきよ。心配してるんだから」

冬子には弟がいる。三歳下の修一である。修一は高校を卒業して、名古屋の自動車工場ではたらくはじめた。その下に、高校生の妹、美由紀がいる。

冬子は、ある意味では、弟や妹の、犠牲のようななつかちだった。中学を卒業すると同時に、女工として工場ではたらかなければならなかった。月々の給料のおかたを、送金して家計をたすけなければならなかつたのだ。だから、修一や美由紀が、人並みに高校へ進学できたのは、彼女のおかげだ、といつても過言ではないはずである。

冬子は病弱な体質を強いられたかわりに、意志がつよかつた。いちどこうだと決めこんだら、徹底してつらぬきとおさのだ。それに、なにかにつけて、自分のことを考えるまえに、他人のことに気を配るというところがあるのだった。

それにしても、と、すでに大人になつた冬子をまえにして、それでもなおぼくは思う。彼女が中学を卒業して播州の紡績工場への就職がきまつたときのことをいまさらのことのように思いだしてしまふからだつた。

あのときぼくは、彼女の両親に腹をたてたのをいまもはつきり憶えている。

たとえ生活が貧しくても、まだ子供こどもした冬子を、女工として遠い他所へ送りこむには、あまりにも早すぎると、という気がしたからだった。ぼく自身の、決して楽しくなかつたさまざまな経験が、彼女の前途にかなつたからだった。

十五歳のとき、ぼくはぼくを育てくれた二人の老人とわかれた。麦わら葺きのわが家のまえで、今日までの長い年月、いろいろお世話になりました。大変ありがとうございました、ご恩は一生忘れません、といって、深ぶかと頭をさげた。

ボストンバッグをもつて駅へと歩きはじめたぼくの背中に、祖父と祖母は、どんなことがあっても辛抱するよう、とかわるがわる叫んだ。ぼくは何回かぶり返り、背伸びして手をふった。むりに笑顔をつくつて、さようなら、いつまでもお元気で、と叫んだ。鋼を噛むような思いで、涙をぐつとこらえた。

冬子が生まれたことによって、母と完全に離別<sup>わかれ</sup>ることのできたぼくは、それからの何年間かを、祖父母のいぢばん小さな息子としてそだてられた。きわめて生きわけよくつとめ、学校の勉強もけつしておろそかにはしなかつたし、農作業もすすんで手伝つた。そうすることが親孝行だと思ってがんばつたのである。

中学三年生になってぼくは高校へ進学したい、といつた。より高度な勉強がしたい、というのではなく、ただ人並みに進学したかったのだ。だけど祖母が反対した。うちにはそんな余裕はない、というのだった。

小学生のときからやつてきたように、これから先もずっと、新聞配達をつづけるし、それに、日曜日は土方のアルバイトにいって、学資はかせぐから、とぼくは頼みこんだ。だけど祖母は頭をたてにふらなかつた。中学校卒業者が、金の玉子、といわれはじめた時代だった。日本の高度成長の過渡期、といわれていた。ぼくは高校へいきたかった。中卒者のだけでもがそうであるように、ぼくも、自分から好んで、金の玉子などに

はなりたくなかった。でも、祖母がウンといわないことには、どうしようもなかつた。だからぼくは、金の玉子や高度経済成長をうらむことによつて、進学を断念した。祖父母とわかれ、村の小さな駅から汽車にのつて、鹿児島駅へいった。その道程は、かつて、母とふたり、戦争へいったきり帰つてこない父をさがして海へとむかつた道だつた。汽車の窓から、ぼくは故郷を眺めつづけた。故郷を去つていかなければならぬ自分自身をながめつづけた。ややもすると泣いてしまいそうになるので、ぼくは、さらば故郷、さらば故郷、と、こころの中でさけびつづけた。父や母も、何もかもおさらばだ。

駅前広場へいくと、県内のあちこちから集まつてきた中学卒業生が、まさに黒山のようになつた。そのおびただしい学生服やセーラー服をみて、ぼくは自分が競市にだされた仔牛になつたような気がした。

じつさいぼくは、祖父につれられて仔牛の競市へ何回かいつたことがある。農村のあちこちの、暗い畜小屋からひっぱりだされた仔牛たちが、広い競市場にまつ黒い波をつくつて揺れていた。澄んだ美しい目の仔牛たちは、やがて貨車に押しこまれ、関東や中部や関西へと送りだされていった。

ぼくたちは就職先の地域別に座席を指定された。しばらくして発車のベルが鳴つた。するとそのベルを合図に、みんながいっせいに泣きはじめた。特別集団就職列車の窓から長々と手をさしだし、プラットホームの父や母や弟や妹の手へと乱れとんだ。

ぼくはじと堪えていた。そのうちベルが止んだ。するとなんともいえない空白感におそれ、すぐさまそれが、死んでしまいたいような孤独感、心臓をちぎられるような寂寥感にかわつた。車両がガタツと揺れた。一瞬、ぼくは自分を見失つた。母がぼくの前から去つていったあの日の、墜落感に襲われた。